

“グローバル種子企業が「タネを制するものは世界を制する」ということで独占し、公共のタネでなくなってしまう懸念がある”

鈴木宣弘教授  
(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)



## 生産者と育種権者

それぞれの思い——

“種苗法が改定されれば、  
私たち育種家は助かります”

林慎悟さん  
(林ぶどう研究所代表)



2018年4月、種子法廃止  
そして2020年10月、種苗法改定案の国会審議が再び始まる  
急速なグローバル化の中であらためて問われるタネの権利とは

2020年6月に国会成立が見送られ、継続審議となった種苗法改定の動きに対して賛否が渦巻く中、自家採種・自家増殖している農家と種苗育成農家の双方の声を伝えるため、北海道から沖縄まで様々な農業の現場取材。政府が拙速に改定を成立させようとしている中、種苗法改定(案)が日本の農業を深刻な危機に陥れる可能性を、専門家の分析も含め農業の現場から探った——



2005年、山形のさくらんぼ「紅秀峰」の豪州流出を裁判で解決した水上進弁護士

伊藤英信さん(アグリシステム株式会社代表取締役会長)

監督・撮影・編集：原村政樹(はらむらまさき)

1957年、千葉県生まれ。大学卒業後、フリーの助監督を経て1988年に桜映画社に入社。同年、アジアの熱帯雨林破壊問題をテーマにした短編映画「開発と環境」で監督デビュー。以後、記録映画やテレビドキュメンタリーを多数手掛ける。主な作品に『海女のリャンさん』(2004年)、『いのち耕す人々』(2006年)、『天に栄える村』(2012年)など。2015年、『無音の叫び声』制作を機に、フリーの監督として独立、『武蔵野』(2017)、『お百姓さんになりたい』(2019)を制作。

監督・撮影・編集：原村政樹 プロデューサー：山田正彦  
語り：江原啓之 音楽：鈴木光男 映像技術：宮崎 諒 整音：丸山 晃  
収録：(株)モイ 企画：一般社団法人心土不二 取材協力：印輪智哉  
協力：日本の種子(たね)を守る会/映画「武蔵野」製作委員会  
予告編制作：大友頌平(SEA) 宣伝イラスト：佐藤ゆうこ&レン  
配給：きらくびと 2020年/日本/カラー/65分



八木岡努さん(JA茨城県中央会会長)

山本伸司さん(種子島サトウキビ農家)

古谷慶一さん(有機農家、栃木県大田原市)

# タネは誰のもの

kiroku-bito.com/tanedare



2020.11月13日(金)より UPLINK 渋谷にて緊急公開!

その他  
全国順次  
公開

上映期間中、監督などによるトークイベントを予定!

※詳細は公式HPまたは、劇場HPをご確認ください。

全国共通特別鑑賞券1,000円(税込)発売中!

渋谷・東急本店右側通200m先

UPLINK 渋谷

03-6825-5503 shibuya.uplink.co.jp



12/14(月)～  
横浜シネマリン  
045-341-3180  
cinmarine.co.jp